

5年 国語科研究授業のまとめ

(9月21日)

1 単元名及び単元の目標

注文の多い料理店(6/10本時)

- ◎ 物語の構成や表現の工夫を見つけて、作品の良さを解説することができる。

2 本研究授業の提案について

山ねこの心情を想像し、考えを深めさせるための手だてとして、以下の二つを提案した。

- (1) ジグソー学習の手法を取り入れ、山ねこの親分の気持ちについて想像を広げることができるようにした。「1・2の扉」「3・4の扉」「5・6の扉」の3グループに分け、それぞれの

部分での山ねこの気持ちを考えさせ、その後ジグソーで交流した。個人の考え→グループで共有→ジグソーで他グループに説明→グループに戻って説明・共有、というプロセスを踏むことで、自分の意見を明確にするだけでなく、他グループの意見にも気付いて想像を広げることができた。しかし、心情の読み取りの根拠となるような記述が本文中にあまり多くは見られず、効果的に児童の考えを深めることができなかった。考えを深めさせるには、構成の面白さや色の表現、二つの意味を持つ言葉など、物語の面白さを解説する内容で交流することの方が適していたといえる。今後は教材の特性に合った読み取りの観点を設定する必要がある。

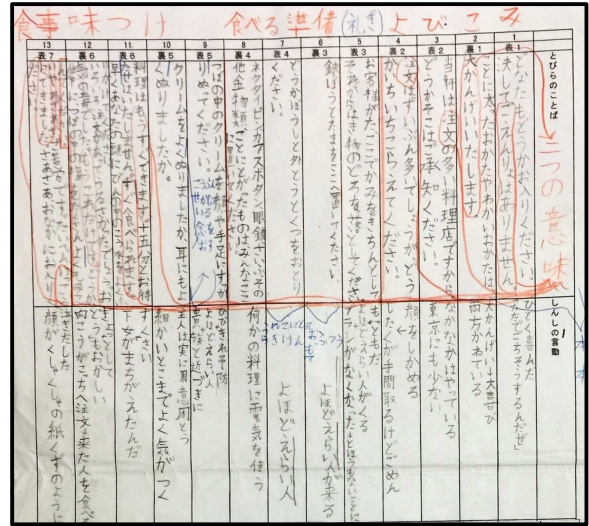
- (2) ワークシートの構成を工夫して、読み取りの活動に生かすことができるようにした。各扉の裏表の言葉や山猫の気持ちを一つのワークシートに記入する形式にしたことで、それぞれの内容を比較したり関連付けたりして考えることができた。表の扉が山猫の建て前で裏の扉が本音であることや、最後に近づくにしたがって山猫の期待感が高まっていく様子などを読み取ることができ、細かいところまで行き届いている筆者の工夫について理解することができた(資料1)。

3 本研究授業の授業技術課題について

本研究授業では、ジグソー学習の手法を取り入れた。学習の進め方に慣れさせるためにも、本時に至るまでの3時間で同様の手法を用いて紳士の心情や人物像について考えさせた。児童はジグソー学習の進め方を理解し、説明したり、話を聞いたりする活動を通して登場人物の心情について考えることができていた。今後はどのような学習内容がジグソー学習に向いているのかを考慮しながら、国語科以外でも活用の場所を広げていきたい。

4 今年度の研究を振り返って

今年度は説明文と物語文の研究授業を行った。どちらも読みを深めるための手だてとして、ワークシートを活用する活動を取り入れてきた。書き手の工夫に気付かせたり、主人公の心情に迫らせたりする上でどちらも有効であり、今後も国語の教材研究を行う際に継続して取り入れていきたいと考える。研究主題に関わる「協働的な学び」については、ジグソー学習やグループ学習を行った。考えを伝え合い、比較し、検討する活動を行ってきたが、教材の特性を十分理解した上で、それに適した協働的な学習を取り入れることの大切さを痛感した。今後は単元の指導内容について十分な教材研究を行い、話し合いが活性化するような協働的な学習の在り方を探っていきたいと考える。



【資料1 考えを関連付けるためのワークシート】